



◆ 観測隊「安全講話」

12月10日より、隊員向けの安全講習が始まりました。講師は、研究観測や設営のリーダーの方々です。19日まで、全18講座が開催されました。内容は盛りだくさんです。輸送や設営作業の危険ポイント、南極の気象、野外活動時の注意点、ヘリコプターの搭乗方法、HF無線機の取扱いについて、南極における医療・応急措置、事故例の検証など、環境や生活、仕事内容、組織などが大きく変わるため、どれも欠かすことができない重要な内容です。真剣な眼差しで聴講、あるいは実技、ディスカッションに臨んでいました。



◆ 揺れる「しらせ」

前回、今年は非常に穏やかな航海が続いています、と記しましたが、17日(木)は揺れが厳しくなりました。甲板に出てみると天候は曇り空。暴風圏に入っているということではないのですが、遠くの風浪がうねりとなって伝わっているようです。前後、左右、そしてローリングするように揺れ続けました。写真のペットボトルのお茶や錘の傾きで、揺れる様子を想像あれ。



前後方向



左右方向



左右方向

NO. 6の「南極トリビア」の答えは、右写真にありますように、

② ゴミ箱が正解でした。合っていましたか？

壁面に磁石で付くようになっていています。船が揺れても、ゴミ箱が飛ばないように工夫されています。私は、しらせに乗船して、6日目にして気づきました。好奇心が足りないことに、我ながら反省いたしました。



◆ JARE57 隊員紹介

住吉 昌直 (31) 夏隊 定常観測 (海底地形調査・潮汐) 広島県出身
海上保安庁海洋情報部

広島県立呉三津田高校より京都大学理学部に入学。天文学が専門。ハワイにある「すばる望遠鏡」の観測データを用い、宇宙にたくさんある銀河の空間分布から宇宙のなりたちを探る研究に取り組んでいた。大学院で6年間の研究生活を送ったのち、3年ほど前に海上保安庁に就職。水路測量のための観測機器整備等を行い、技術の向上に努めている。57次隊での任務は、しらせ船上における音波探査技術を用いた海底地形調査、XCTD観測(機器を海洋に投入し、水温・塩分・音速データを水深1000~2000mまで測定)である。昭和基地では驗潮テレメータの調整作業等をおこなう。南極では、ダイナミックな地形や自然を体感したいとのこと。皆さんには、「目の前のことに囚われ過ぎず、自分が疑問に思ったことは突き詰めましょう (自戒を込めて…笑)」とアドバイス。



データ収集中の住吉隊員

加えて、「少しお高いですが、一家に1枚、海図を！」。

<しらせ情報>

17日(木) UTC時 15:51 (日本時 6:51) 現在
しらせ 62° 23' S、68° 02' E
時差：日本時-4時間 南下を続けています。

